



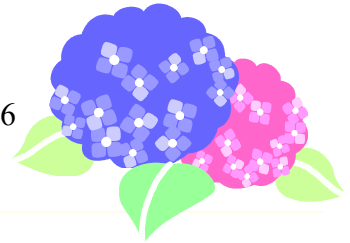
# 校長室通信



小国町立小国中学校

令和4. 6. 10(金)No6

文責 狹間卓史



## 「 備える訓練 」

先週3日(金)に実施しました「大雨時引き渡し訓練」に際しましてはご多用の中ご協力いただきましたことありがとうございます。平日の日中の訓練であったにもかかわらず、円滑に実施出来たことに担当者(森田教諭)も驚いていました。

先週、今週と大雨により浸水した国内外の被災地の様子をニュースで見聞きする機会がありました。私自身も平成24年(2012年)7月に発生した九州北部豪雨では自宅が床上浸水の被害にあいました。

水位が上昇するのは本当にあつという間のことで、その時の光景は忘れることが出来ません。その際に言われていた「数十年に一度の大雨」という表現は、今や年間に何度も聞かれる言葉となりました。万が一の事例は、いつ何時発生するのか分かりません。あらためて非常時のご家族の約束事を確認されておかれることをお勧めします。

なお、今回の訓練に際しましてお気づきの改善点等ありましたら、お知らせいただけますとありがたいです。今後の備えに活かしていきたいと思っています。



【 当日の様子です 】

## 「 光る廊下 」

熊本県が作成した道徳教育用郷土資料『熊本の心』には「光るえんがわ」(小学1・2年生用)という資料がありますが、これは本町出身の北里柴三郎氏の伝記教材です。

その内容は、柴三郎が子ども時に南小国町の親戚の家に預けられた際、その家の叔母さんに掃除の仕方を教えられ、毎日縁側の拭き掃除をするように言われます。最初の頃は仕方なく取り組んでいたものの次第にやりがいを見いだし、預けられていた期間、毎日拭き続けます。二年後に自分の家に帰ることになった最後の日にも拭き掃除を行い、ぴかぴかに光る縁側をじっと見つめるという場面でその物語は終わります。

なぜ私がこの話を紹介したかと言いますと、本校一階廊下がぴかぴかで正に「光る廊下」であり、この状況を作り出してきた生徒らの姿をお伝えしておきたかったからです。

コロナ禍の現在ではありますが、最近では県内外の各高校等、外部からの来校者が増えています。その方々が職員玄関から校長室の間を通られる際に必ずと言って良いほど口にされるのが、「廊下がぴかぴかで気持ちいいですね」と言う言葉です。

この廊下が増設されて十二年ほどの時間が経過しています。これまでこの場所を担当してくれた生徒らが代々に渡って丁寧に掃除し続けてくれたからこそこの「光る廊下」です。

今日も掃除中に黙々と拭き続ける生徒と職員の姿がありました。これからもこれまで同様に大切にしたい「小国中の心」です。

※カラー版を本校ホームページをご覧ください(廊下の光り具合が分かっていただけだと思います)



【 鏡のようです 】